

# 社会科学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成28年5月19日（木）第2校時  
対 象 3年4組（男子20名 女子20名 計40名）  
指導者 教 諭 塩 入 俊 郎

## 1 単 元 「開国と近代日本の歩み」

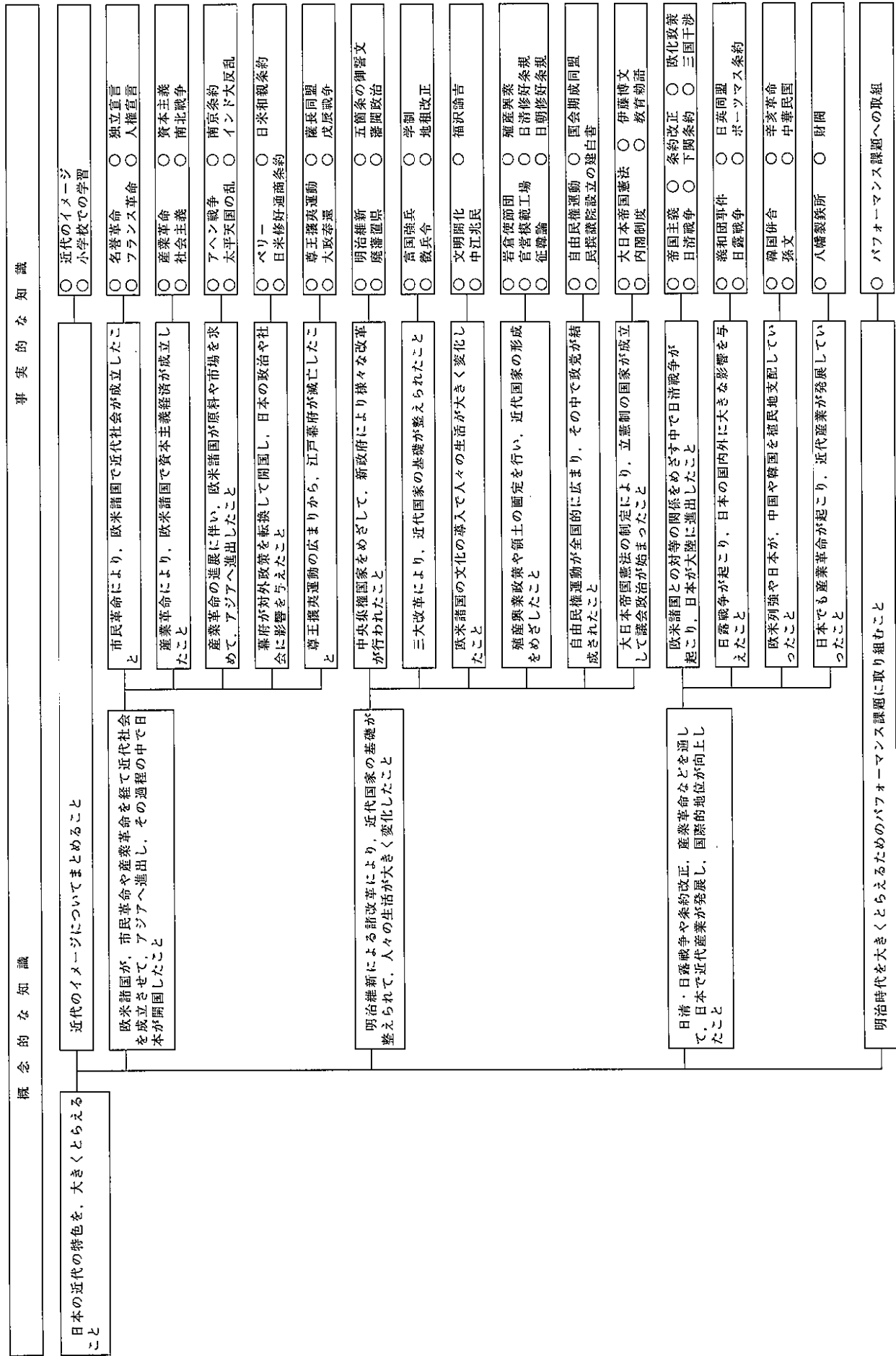
### 2 単元の考察

江戸幕府は、欧米諸国のアジア進出にともない、対外政策を転換し、開国した。明治の初め、欧米列強が勢力を広げる国際情勢の中で、近代国家になる必要があると考えた明治政府は、短期間で諸改革に取り組んだ。さらに、大日本帝国憲法の制定や日清・日露戦争の勝利は、条約改正を通して国際的地位の向上にもつながっていった。その一方で、自由民権運動や政党の結成、労働問題の解決など、民権派の動きも盛んになっていった。このように本単元で扱う明治時代は、欧米と同質の近代化を果たそうとする日本の立場と、近代化した欧米と対峙しながらも、変革を成し遂げていこうとする日本の立場が共存する中で、国家としての選択を迫られた時代である。それゆえ、当時の政府や人々が、どのような思いで日本の近代国家の基礎を整えていったかに気付かせ、国づくりのために尽力した人々の思いに触れさせるようにしたい。

生徒は、「歴史の学習に関心がある」と考えている者が32名（80%）おり、全体として関心が高く、学習意欲も高い。また、歴史を学ぶ意味について、「過去の良い点や過ちを学び、これからの社会に生かしていくため」29名（73%）、「これからの自分の生き方に生かしていくため」7名（18%）、「自分の知識を増やすため」4名（10%）と答えた。さらに、現代社会における問題として、最も関心のあることとして、「テロ問題」25名（63%）、「少子高齢化」18名（45%）、「難民問題」10名（25%）などを挙げていた。以上のことから、ほとんどの生徒がこれまでの歴史を現代やこれからの社会に生かそうとする意識があることが分かる。また、全ての生徒が現代社会の抱える諸問題に関心をもっていることから、それらを意識させたり、関連付けさせたりすることで、これからの社会の在り方を問題提起させる歴史的分野の学習が展開できると考える。

指導に当たっては、欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で開国し、急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え、その後常にアジア諸国や欧米諸国と密接なかかわりをもってきたことを、当時の社会的背景や国際情勢を踏まえながら理解させたい。さらに、単位時間ごとに、スモールステップで価値判断場面を設定する。それぞれの課題に対して、自分なりの考えをまとめさせる。それぞれの課題に対して、明治政府の諸政策と民権派の動きを比較して調べることで、当時の日本政府の思惑や国際情勢、当時の民衆の思いなどに対するイメージをふくらませるようにしたい。単元の最後のまとめとして、社会参画の視点を取り入れたパフォーマンス課題「明治時代、日本はなぜ国際的地位を高めることができたのか」に取り組ませる。生徒が身に付けた知識、概念や技能を見とるために、社会の形成に参画していくための活動につながるような表現（提案）活動を行う。このような学習を通して、実際の社会に出たときに、生徒が直面する様々な問題を、自ら解決していく力も身に付けさせたいと考えた。

### 3 単元の学習内容の構造化



4 単元の目標

- 近代日本の歩みや国際情勢について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。(社会的現象への関心・意欲・態度)
- 近代国家成立の背景やその影響について、多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考・判断・表現)
- 適切に選択した資料を基に、近代日本が成立していく過程について読み取らせ、ワークシートにまとめさせる。(資料活用の技能)
- 近代の特色を世界の動きと関連付けて理解させ、その知識を身に付けさせる。(社会的現象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点(全18時間) — 評価(授業中) — 評価(授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識)	時間	評価 規 準			主な言語活動の 具体的場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	
近代のイメージまとめ 小学4年の学習内容を振り返り、 近代のイメージをまとめる場面 ○ 小学校の学習内容	1	これから学習する近代について関心を高め、意欲的に追究している。 【観察】	近代の特色について考察し、適切に表現している。 【ワークシート】		近代のイメージをまとめる場面 前の時代との違いを予想したりして論述する場面
近代革命の時代 東欧革命が近代社会が成立したことを読み取る場面 ○ 東欧革命 ○ フランス革命 ○ 産業革命 ○ 人権宣言	1	東欧革命が近代社会が成立したことを意欲的に追究している。 【観察】	東欧革命の内容やその影響を多角的に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】		近代革命の資料から革命の背景や社会の変化を読み取る場面
産業革命が社会に与えた影響について考察する場面 ○ 産業革命 ○ 資本主義 ○ 社会主義 ○ 南北戦争	1		産業革命の特色や影響について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	産業革命の内容やその影響について理解している。 【ノート】	産業革命に関する資料から産業革命が社会に与えた影響について解釈する場面
ヨーロッパのアジア侵略 欧米列強がアジアへ侵略した目的とその影響を考察する場面 ○ アヘン戦争 ○ 太平天国の乱 ○ 南京条約 ○ インド大反乱	1		ヨーロッパ諸国がアジアへ侵略した目的やその影響を適切に表現している。 【ワークシート】	アジア諸国の状況について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	ヨーロッパ諸国がアジアへ侵略する様子を読み取る場面
開国と不平等条約 開国が国内に与えた影響について読み取る場面 ○ ベリー ○ 日米和親条約 ○ 日米修好通商条約	1	開国により国内の生活や文化が変化したことを意欲的に追究している。 【観察】	開国が国内に与えた影響について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	開国の影響とその後の幕府の政治について理解している。 【ノート】	条約や貿易に関する資料から開国が国内に与えた影響について読み取る場面
開国後の幕府政治の推移について理解する場面 ○ 幕府の衰退 ○ 幕府の倒幕 ○ 大政奉還 ○ 戊辰戦争	1		開国後の幕府政治の推移について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	開国の影響とその後の幕府の政治について理解している。 【ノート】	幕府政治の推移について開国の影響と関連付けて説明する場面
新政府の成立 新政府が中央集権国家の成立をめざしたことを理解する場面 ○ 明治維新 ○ 五箇条の御誓文 ○ 廃藩置県 ○ 藩閥政治	1	明治維新が中央集権国家の成立をめざしたことを意欲的に追究している。 【観察】	新政府が中央集権国家の成立をめざしたことを適切に表現している。 【ワークシート】	新政府が近代国家を形成する過程について理解している。 【ワークシート】	五箇条の御誓文や新政府のしるしなどから中央集権国家をめざしたことを読み取る場面
明治維新の三大改革について考察する場面 ○ 富国強兵 ○ 学制 ○ 徴兵令 ○ 地租改正	1		三大改革の特色や影響について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	三大改革の内容やその影響について理解している。 【ノート】	三大改革に関する資料から三大改革が社会に与えた影響について読み取る場面
世界とつながる日本と文明開化 文明開化により人々の生活が変化したことを読み取る場面 ○ 文明開化 ○ 福沢諭吉 ○ 中江兆民	1	文明開化により人々の生活が変化したことを意欲的に追究している。 【観察】	新政府が殖産興業を進め、文明開化を適切に表現している。 【ワークシート】	殖産興業により国内の産業が発展した過程について理解している。 【ノート】	殖産興業に関する資料から日本の産業が発展した様子を読み取る場面
殖産興業の目的とその影響について考察する場面 ○ 岩倉使節団 ○ 殖産興業 ○ 官制改革 ○ 官制改革	1	文明開化により人々の生活が変化したことを意欲的に追究している。 【観察】	文明開化により人々の生活が変化したことを適切に表現している。 【ワークシート】	文明開化により人々の生活が変化したことを適切に表現している。 【ワークシート】	明治初期の日本の社会の様子を読み取る場面
自由民権運動の高まり 自由民権運動が高まった過程について理解する場面 ○ 自由民権運動 ○ 国会開成同盟 ○ 民権院設立の理窟	1	自由民権運動が高まった過程について意欲的に追究している。 【観察】	自由民権運動が高まった過程について意欲的に追究している。 【ワークシート】	自由民権運動が高まった過程について意欲的に追究している。 【ワークシート】	自由民権運動が高まった過程について意欲的に追究している。 【ワークシート】
立憲制国家の成立 大日本帝国憲法の特徴について理解する場面 ○ 伊藤博文 ○ 大日本帝国憲法 ○ 内閣制度 ○ 教育勅語	1		大日本帝国憲法の特徴について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	大日本帝国憲法の特徴について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】	大日本帝国憲法の特徴について読み取り、適切に表現している。 【ワークシート】
帝国主義と日露戦争 帝国主義の背景とその影響について考察する場面 ○ 帝国主義 ○ 条約改正 ○ 日露戦争 ○ 三国干渉	1	帝国主義の背景とその影響について意欲的に追究している。 【観察】	帝国主義の背景とその影響について意欲的に追究している。 【ワークシート】	日露戦争の原因や結果について意欲的に追究している。 【ワークシート】	日露戦争の原因や結果について意欲的に追究している。 【ワークシート】
日露戦争 日露戦争の原因と結果及びその影響について考察する場面 ○ 日露戦争 ○ 日英同盟 ○ 露清戦争 ○ ポーツマス条約	1	日露戦争の原因と結果及びその影響について意欲的に追究している。 【観察】	日露戦争の原因と結果及びその影響について意欲的に追究している。 【ワークシート】	日露戦争の原因と結果及びその影響について意欲的に追究している。 【ワークシート】	日露戦争の原因と結果及びその影響について意欲的に追究している。 【ワークシート】
韓国と中国 韓国の植民地化の進展について理解する場面 ○ 韓国併合 ○ 辛亥革命 ○ 孫文 ○ 中華革命	1		韓国の植民地化の進展について意欲的に追究している。 【ワークシート】	韓国併合や中国国内の様子について意欲的に追究している。 【ワークシート】	韓国併合や中国国内の様子について意欲的に追究している。 【ワークシート】
産業革命の進展 産業革命により人々の生活が変化したことを読み取る場面 ○ 八幡製鉄所 ○ 財閥	1	産業革命により人々の生活が変化したことを意欲的に追究している。 【観察】	産業革命により人々の生活が変化したことを意欲的に追究している。 【ワークシート】	産業革命により人々の生活が変化したことを意欲的に追究している。 【ワークシート】	産業革命に関する資料から日本の産業が発展した様子を読み取る場面
パフォーマンス課題への取組 近代国家が国際的地位を高めていく過程について考察する場面 ○ パフォーマンス課題	本時	近代日本が国際的地位を高めていく過程について意欲的に追究している。 【観察】	近代日本が国際的地位を高めていく過程について意欲的に追究している。 【ワークシート】	近代日本が国際的地位を高めていく過程について意欲的に追究している。 【ワークシート】	明治時代の学習について、この特色について振り返り、意欲的に追究している。 【ワークシート】
全18時間における各評価観点の配当時数		①	9+①	7+①	1+⑥

## 6 本時の実際 (18/18)

(1) 主題 「明治時代、日本はなぜ国際的地位を高めることができたのか」

### (2) 本時の目標

- ア 近代日本が国際的地位を高めていったことについて関心を高め、意欲的に追究しようとしている。(社会的事象の関心・意欲・態度)
- イ 明治時代における日本の国際的地位について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。(社会的な思考・判断・表現)

### (3) 主題の考察

本単元では、我が国の近代の特色を、世界の動きとの関連に着目して学習してきた。明治という時代の背景には、欧米における市民革命、産業革命とアジアへの進出からの影響、貨幣経済発展を想定していない幕藩体制や年貢制度の矛盾など国内外の様々な要因があった。また日本が近代国家として国際的地位を向上するために、積極的に欧米文化を摂取し、廃藩置県、富国強兵政策、殖産興業、地租改正、学制の公布など様々な改革を行った。その結果工業のめざましい発展や身分制度の廃止、民主政治の発展など正の側面がみられた反面、公害や労働問題の発生、帝国主義萌芽による大陸進出など負の側面もあらわれた。

アンケートによれば、明治時代初期の三大改革について、自分の言葉で説明できた生徒が、「徴兵令」28名(70%)、「学制」31名(78%)、「地租改正」32名(80%)いて、ほとんどの生徒が、その内容を理解することができていた。しかし、これらの改革が、日清・日露戦争とどのような関係性があるのかということについて質問したところ、25名(63%)の生徒が自分の言葉で表現することが十分にできていなかった。これらのことから、生徒は、明治時代に起きた具体的な史実について、内容についてはある程度理解できているが、政治、経済、外交といった複数の視点でとらえ、日本が近代国家となったことと関連付けて考察することが十分にできていないことが分かった。

指導に当たっては、これまで学習したことを基に、パフォーマンス課題「明治時代、日本はなぜ国際的地位を高めることができたのか」を設定し、追究させる。その際、明治時代に日本が国際的地位を高めていったことに効果が大きかったできごとを史実から選択させ、資料を基に政治、経済、外交等、様々な視点から考察させる。そしてルーブリックによる分析に基づいて、生徒の作品について、付せんに記入する形で個別にアドバイスをする。本時では、同じ意見をもつ生徒同士での協働の活動として、自己の主張をグループで表現させ、課題解決のために互いに質問を提示したり、主張を比較させたりする中で、自己の主張を論理的に考察させる。そして、グループ内で考察したこと基に、自分の作品について練り上げをさせる。このような活動を通して、広い視野に立って多面的・多角的に社会的事象を考察させ、主体的に社会の形成に参画するために必要な創造的に考える力や態度を養っていくことができると考えた。

(4) 研究に関する指導の工夫

【教科編4-(2)-ア 社会参画の視点でのパフォーマンス課題の設定】

生徒が単元を通して獲得した知を用いてパフォーマンス課題に取り組み、社会参画の視点で明治時代における日本の国際的地位の高まりについての自己の主張をまとめることで、生徒の思考力・表現力・判断力を高めさせる。

【教科編4-(2)-イ 生徒同士の協働の活動による指導の工夫】

協働による活動を取り入れることによって、他者からの意見を基に、自己の作品の練り上げを行わせる。

(5) 本時の展開 (18/18)

主な発問や指示	欄	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<p>&lt;問題把握&gt;</p> <p>○ 前回までにまとめた自分の考えを振り返ってみよう。</p>	5	<p>1 前回の学習を振り返りパフォーマンス課題の確認をする。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p>	<p>1 前時までに作成した自己の作品を、視点を意識させながら、確認させる。</p> <p>2 協働の活動を通して自己の作品を練り上げる意欲を高めさせる。</p>	<p><b>ワークシート</b></p> <p>「明治時代、日本はなぜ国際的地位を高めることができたのか」</p> <p><b>資料</b></p> <p>明治時代の資料</p>
<p>明治時代、日本はなぜ国際的地位を高めることができたのか</p>				
<p>&lt;本質究明&gt;</p> <p>○ よりよい作品にするために、グループで意見交換をしてみよう。</p>	8	<p>3 他者との意見交換を通じて、自己の作品について考察する。</p>	<p>3 他者と協働して、自己の作品について、視点や事象とのつながりを意識させ歴史的事象をとらえさせる。</p> <p>【教科編4-(2)-イ】</p>	
<p>↓</p>				
<p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <p>明治時代における日本の国際的地位について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。</p>				
<p>○ グループで話し合ったことを基に、自己の作品を練り上げてみよう。</p>	15	<p>4 グループで話し合ったことを基に、自己の作品を練り上げる。</p>	<p>4 協働によって気付いた点を基に、自己の作品を練り上げさせる。</p>	
<p>↑</p>				
<p>【社会的な事象の関心・意欲・態度】</p> <p>近代日本が国際的地位を高めていったことについて関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p>				
<p>○ 練り上がった作品を発表しよう。</p>	12	<p>5 練り上げた作品を発表する。</p>	<p>5 明治時代を様々な視点から、多面的・多角的にとらえさせる。</p>	
<p>&lt;洞 察&gt;</p> <p>○ 明治時代を大きく、とらえよう。</p>	10	<p>6 明治時代を大きくとらえ、現代社会における政策と比較する。</p>	<p>6 明治時代と現代社会を比較させることで、共通点や相違点に気付かせる。</p> <p>【教科編4-(2)-ア】</p>	

□ は評価場面、 ○ は授業中における評価観点、 ( ) は授業後における評価観点

(6) 主な資料

資料1 脱亜論 (1885年) 福沢諭吉

日本はアジアの東端にあるけれども、国民の精神は、他のアジアの諸国のような古いものの考え方から脱して、すでに西洋文明を受け入れるようになっている。隣国の清と朝鮮は西洋文明に接しても国を改革することができず、いまだに古い慣習や考え方からぬけ出していない。それゆえ、日本は清や朝鮮と仲よくするのはやめて、ヨーロッパの文明国と進退をともにしよう。隣国だから特別な思いをかける必要はなく、ヨーロッパ人がするようにこの二つの国に接していけばよい。

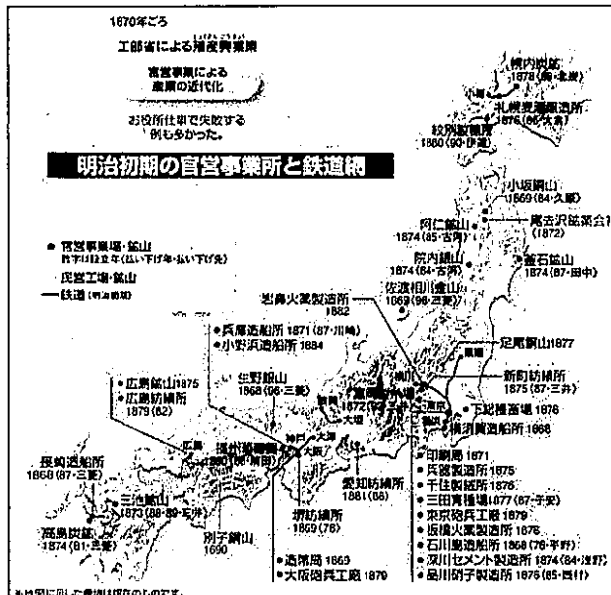
遠山茂樹「日清戦争と福沢諭吉」より

資料2 ネルー (インド首相) のことば

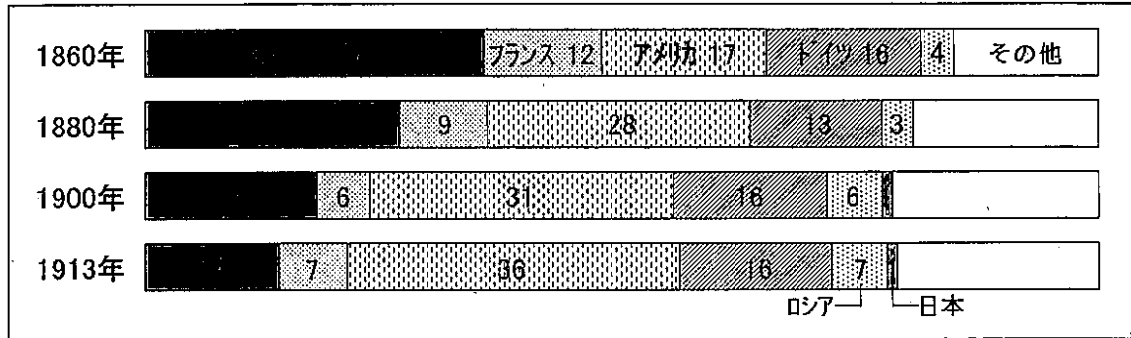
アジアの一国である日本の勝利は、アジアのすべての国ぐにに大きな影響を与えた。私は少年時代、どんなにそれに感激したかを、おまえによく話したことがあったものだ。たくさんのアジアの少年、少女、そして大人が、同じ感激を経験した。…「アジア人のアジア」のさげびが起こった。しかし、その直後の成果は、少数の侵略的帝国主義諸国のグループに、もう一国をつけ加えたというにすぎなかった。そのにがい結果を最初になめたのは朝鮮であった。

ネルー「父が子に語る世界歴史」より

資料3 官営事業所 (鉄道・工場・鉱山など)



資料5 世界の工業生産に占める列強の割合 (%)



資料4 列強クラブの仲間入り



清水勲「ビゴーが見た日本人」より

ビジュアルワイド「図説世界史」より